

調査項目および調査工程(野生動物に関する調査)

調査項目	調査地点等		調査工程									調査頻度	調査実施年度					備考
			4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月		H16	H17	H18	H19	H20		
1. 植生タイプ別調査		柵内 柵外																
(1) 哺乳類																		
a 地表性小型哺乳類調査	対照区 I ~ VII	○ ○			↔				↔			隔年	●	●	○	●	○	シャーマントラップ(25個)とピットフォールトラップ(9個)で捕獲。種組成及び個体数を記録。
(2) 鳥類調査																		
a 区画センサス	対照区 I ~ VII	○ ○										1回/5年	●		●			午前30分、午後30分のセンサス。鳥類の種類、個体数、滞在時間、繁殖に関する情報を記録。
b テリトリーマッピング	6ルート											1回/5年	●		●			設定した約1kmのルートにおいて、片側50mを観察し確認位置を記録。
(3) 昆虫類等調査																		
a 地表性甲虫類調査	対照区 I ~ VII	○ ○										初期毎年、1回/5年	●	●	●			ピットフォールトラップ(30個)で捕獲。オサムシ・ゴミムシ類の種組成、個体数を把握。
b 大型土壌動物調査	対照区 I ~ VII	○ ○										初期毎年、1回/5年	●	●	●			1m × 1m のコドラー5個。シフターで篩い、ツルグレン抽出。大型土壌動物の種組成・個体数を把握。
c 方類調査	対照区 I ~ VII	○ /										1回/5年	●					ボックス式ライトラップを一晩設置し捕獲。大型方類の種組成、個体数を把握。
d 食材性昆虫類調査	対照区 I ~ VII	○ ○										初期毎年、1回/5年	●	●	●			衝突板トラップを設置して、誘引剤で捕獲。食材性昆虫の種組成、個体数を把握。
e クモ類調査	対照区 I ~ VII	○ ○										初期毎年、1回/6年	●	●	●			10m × 10m の範囲で30分間クモを探索し、生息場所別採集。クモの種組成・個体数を把握。
2. 地域特性把握調査																		
(1) 哺乳類																		
a 地表性小型哺乳類調査					↔				↔			隔年	●	●	○	●	○	任意の地点においてシャーマントラップとピットフォールトラップで捕獲。
b 樹上性小型哺乳類調査	6ルート											1回/5年	●					70m 感覚で15個の巣箱を設置。巣箱の利用状況を調査。ヤマネ等の動物の生息状況を把握。
c コウモリ類調査	2~4地点											1回/5年	●					適当な調査地にカスミ網を設置し1晩の捕獲。コウモリ類の種類について把握。
d 中・大型哺乳類調査	対照区 I ~ VII +5ルート	○ /			↔	↔	↔	↔	↔			1回/5年	●			○		痕跡状況調査および自動撮影調査。中・大型哺乳類の生息状況を把握。
(2) 爬虫類												他調査時に適宜	●	●	●	●	○	他調査時の確認データを記録。爬虫類の生息状況を把握。
(3) 両生類												1回/5年、地点記録適宜	●	●	●	●	○	水系毎の繁殖状況調査(1回/5年)および他調査時の確認地点記録。両生類の生息状況を把握。
(4) 昆虫類等																		任意の地点において、生息状況の調査を実施。保全上の重要種や固有種を中心に把握。
a 少希種・固有種												初期毎年、1回/5年	●	●	●			任意の地点において、生息状況の調査を実施。保全上の重要種や固有種を中心に把握。
3. 西大台利用調整地区モニタリング調査																		
a 土壌動物調査	2地点(V-3,4:植生調査と同一地)								↔			初期毎年、1回/5年			●	○		歩道から0、2、4、8m地点で100ccの土壌を採取、ツルグレンにて抽出。

※H16年春に柵設置 H16年度はベースライン調査の位置づけを持つ